

県食肉事業協同組合連合会  
松陽高生に秋田錦牛提供  
生徒自ら焼いて試食



秋田錦牛を頬張る能代松陽高の生徒

県食肉事業協同組合連合会 陽高校に贈った。食育や地産  
(小松信一会長)は、県産黒 地消を進める目的。家庭科の  
毛和牛「秋田錦牛」のA4ラ 調理実習を通じ、1年生16  
人への食肉計約29kgを能代松 3人がおいしさや品質の高さ

について学んだ。

7、20日に5回に分けて寄贈した。このうち15日の調理実習では、普通科の生徒35人がフライパンで焼いて試食。教員から「焼き過ぎないように」と指導を受け、肉にさっと火を通した。たれや塩こしように味付けし、炊きたてのご飯と一緒に味わった。

大井結子さんは「普段食べている肉よりも軟らかくておいしかった。生産者の努力が感じられた」と話した。

同連合会は毎年県内の一部の実業高校に県産牛の肉を提供している。(加藤龍太郎)